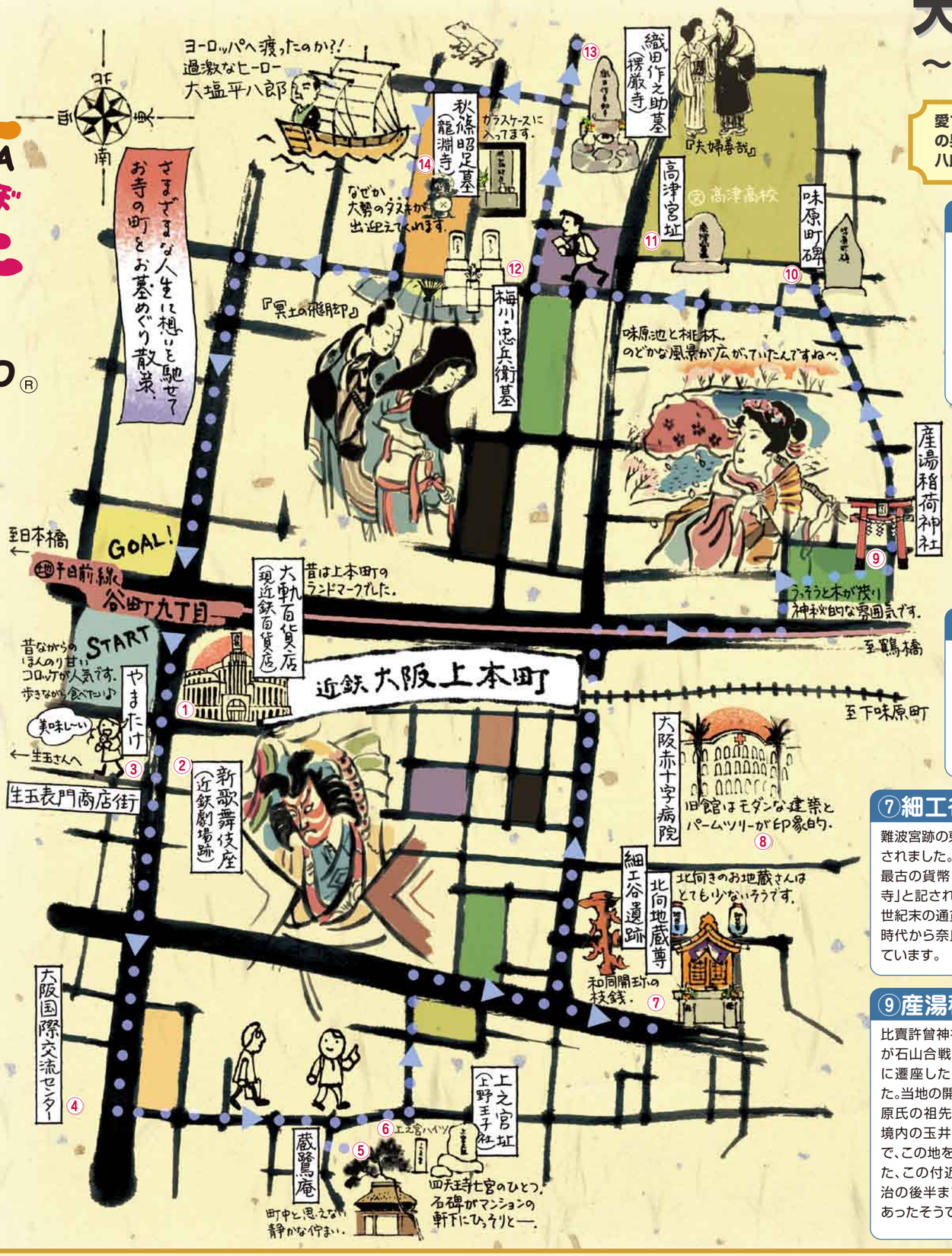
大阪は‘まち’がほんまにおもしろい

大阪あそ歩 OSAKA ASOBO®

大塩平八郎生存説の謎を追う！
～おおさか庶民に愛された偉大なる先人たち～

愛する梅川を身請けするために、公金に手をつけてしまった忠兵衛、夫婦善哉に託して大阪下町の男と女の人生を描いたオダサク、死を覚悟しながら「救民」の旗印を掲げて立ち上がった大塩平八郎など、上本町界隈の、庶民が愛した大阪の先人たちの物語をたどります。



①大軌百貨店(現近鉄百貨店)

大軌ビルディングは大阪電気軌道株式会社が大正15年(1926)に建設した日本最初のターミナルビルです。大軌は明治43年(1910)に設立。大阪上本町と奈良を結ぶ路線の建設に着手し、大正3年(1914)に開業しました。このビル内には最初は三笠百貨店、続いて昭和11年(1936)に大軌百貨店が入り、現在の近鉄百貨店上本町店へと続いていきます。

②新歌舞伎座(近鉄劇場跡)

近鉄劇場は昭和29年(1954)に近鉄会館の名称でオープンしました。当初は映画興行が中心でしたが昭和60年(1985)に改装し、劇団四季やOSK日本歌劇団などが公演する大阪の演劇文化の拠点となりました。しかし施設の老朽化と演劇人口の減少に伴い閉館、解体されました。平成22年(2010)夏、跡地にオープンした複合ビル「上本町YUFURA」には、これも建物が老朽化のため難波から移転してきた新歌舞伎座が入りました。

③生玉表門商店街

生國魂神社の表参道にあたり、古くより門前町として栄えました。谷町筋の拡幅以前は、カフェー、尺八屋、玉突屋、下駄屋、古本屋、写真館、天婦羅屋、メリヤス屋などが軒を連ね、大層賑わったそうです。織田作之助はこの界隈で生まれ、育ちました。

④大阪国際交流センター

大阪国際交流センターは、市民レベルの相互理解と友好親善の促進を図るための国際交流活動の拠点として、大阪外国語大学の跡地にオープンしました。多文化共生社会の発展を促す国際シンポジウムや会議、イベントの開催の他、在住外国人のための各種相談窓口を設けています。

⑤蔵鷺庵(ぞうろあん)

四天王寺を鎮守する七宮のうち、鬼門にあたる北東の守りとされたのが上之宮で、ここで仏事を行う僧の住む坊が春海庵、すなわち蔵鷺庵の前身です。春海庵は長い間無住寺になっていましたが、元禄4年(1691)、阿波の藩主蜂須賀の家臣稲田植栄の奥方が開基となり、天桂傳尊禅師が曹洞宗の寺院として再興されました。

⑥上之宮址(上野王子社)

上之宮は四天王寺七宮のひとつでした。熊野古道の九十九王子の4番目・上野王子に当たるとされますが、上野王子の場所に関しては、上之宮にあったとされる説と国分町にあったとの二説があり、確証はありません。明治40年(1907)に大江神社に合祀されました。

⑦細工谷遺跡

難波宮跡の東南に位置する遺跡で、平成8年(1996)に発掘されました。全国初の発見となった和同開珎の枝銭は、日本最古の貨幣を製造する過程で使われたものです。「百済尼寺」と記された墨書土器や瓦、金属加工に関連した遺物や7世紀末の通貨富本銭、尼の父の名前を記した木簡など、飛鳥時代から奈良時代を中心とするさまざまな資料が見つかっています。

⑧大阪赤十字病院

大阪赤十字病院は明治42年(1909)、日本赤十字社大阪府支部病院として発足しました。昭和2年～9年に建てられた旧館は木子七郎氏の設計によるものです。戦前は大阪陸軍病院赤十字病院に指定され、戦後の一時期は連合軍に接収されましたが、昭和31年(1956)現在地に復帰しました。平成15年(2003)に現在の新館が竣工されました。

⑨産湯稲荷神社

比賣許曾神社の旧境内地であり、神社が石山合戦で焼かれて現在の東小橋に遷座した後は境外摂社となりました。当地の開拓神である大小橋命は藤原氏の祖先神とされ、味原郷に誕生、境内の玉井を汲んで産湯に用いたので、この地を産湯といったそうです。また、この付近は俗に桃山といわれ、明治の後半までは大阪屈指の大桃林があったそうです。

⑩味原池跡

『摂津名所図会』には、「味原池、小橋村の西にあり。一名比賣許曾神の御影池という。土人溜池とよぶ。」とあります。比賣許曾神社の祭神下照比売命(したてるひめのみこと)が天の磐船に乗ってこの池に天降ったという伝説が残されています。花見の名所でしたが、大正8年(1919)に埋め立てられました。石碑は区画整理をしたさいの記念碑です。

⑪高津宮址

仁徳天皇の高津宮の所在地には江戸時代より諸説があり、現在も盛んに論争されています。当地の他、現大阪城、上町台地の北端、現難波宮などです。この碑は明治32年(1899)仁徳天皇1500 年祭を記念し建立されたもので、その後道路拡張工事のため、現在地に移転しています。

⑫梅川・忠兵衛墓

梅川と忠兵衛は、近松門左衛門の名作『冥土の飛脚』のモデルとなった恋人同士です。淡路町の飛脚問屋の忠兵衛は、新町の遊女梅川と恋仲になり、梅川を身請けするために、預かった公金に手をつけるという大罪を犯してしまいます。二人は梅川の故郷、新口村へ逃げ、そこで捕われの身に。忠兵衛は処刑され、梅川は近江で懺悔の日々を送りました。二人の墓は死後150年ほど経った安政年間に建てられました。

⑬織田作之助墓(楞厳寺)

オダサクの名で親まれる作家・織田作之助は当地出身。代表作『夫婦善哉』他の作品で、大阪の庶民のねばり強い人生、風俗を描き、人気作家の仲間入りを果たします。戦後は新戯作派・無頼派などと呼ばれ、時代の寵児となりましたが、結核のため、読売新聞に『土曜夫人』を連載中36歳の若さでこの世を去りました。

⑭秋篠昭足墓(龍淵寺)

大塩平八郎父子の逃亡を手助けしたという秋篠昭足(あきしの あきたり)の墓があります。碑文には、「秋篠氏は平八郎の縁者で、天保8年の乱の謀議にも参加し、乱の後、平八郎および其の徒12人と共に河内に逃れ、その後、大塩父子ほか5人は海伝いに天草島に潜伏後、清国に逃れ、大塩父子は更にヨーロッパに渡った。」とあります。大塩生存説の有力な証拠となっています。

【注意事項】この地図は「大阪あそ歩」のまち歩きの資料として作成されました。まち歩きには、歩きやすい服装と靴を着用してください。車などによく注意し、各自で責任をもって行動してください。また、住宅地では住民のプライバシーに十分配慮して歩きましょう。

【お問い合わせ】大阪コミュニティ・ツーリズム推進連絡協議会「大阪あそ歩」事務局　電話06-6282-5930(財団法人大阪観光コンベンション協会内)「大阪あそ歩」の詳しいプログラムはホームページをご覧ください。　http://www.osaka-asobo.jp　または　大阪あそ歩　でネット検索を。

大阪あそ歩のコースは約2～3km、2～3時間程度を基準として作成されています。